福井県勝山市平泉寺町方言の立ち上げ詞

天野　義廣

Ⅰ．はじめに

1．調査対象地

平泉寺町は福井県勝山市の東南部に位置し、人口 1，371 人。世帯数 316。（いずれも平成 17 年 4 月 1 日現在）兼業農家が多く、林業も行われている。白山国立公園の敷地内に位置し、町内にある平泉寺白山神社は養老元年（717 年）泰澄によって開かれたと言われ、毎年全国各地から参拝客・観光客が来訪する。

2．調査年月日：　2005 年 11 月 20 日　午後 6 時半～9 時半

3．話者：平泉　宏祥氏（昭和 16 年 2 月 16 日生）

4．調査者・調査場所：天野義廣・話者の自宅

5．統一調査票による質問調査

6．その他：　①アクセントは高音部位の上に傍線を引いて示した。

②まず統一調査票の文面に従って質問したが、回答が得られない場合は弾力的に質問を変えて、関連する情報を求めるようにした。

③話者のコメント、調査者の気付きは<　>内に記した。

Ⅱ．調査結果

1．自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1)どっこいしょ。一休みしよう。

○アー　ツカレタ。ドレ　ヒトツ　ヤスモ　カチー。ああ、疲れた。どれ、ひとつ休むかなあ。<疲れたときはドッコイショとは言わない。>／○ホンナラ　ヨッコラショット。それでは、よっこらしょっと。<重い荷物をもちあげる時>／○セーノー。ヨッコラショ。<同じく重い荷物をもちあげる時。>

(2)どうれ。出かけることにしよう。

○ヨーシ。ようし。<1 人で行く時。>／○ヨッシャ。よっしゃ。<1 人で行く時>／○ヨッシャ。イク　ゾ。<皆に呼びかける時>

(3)よいこらしょ。とうとう山の天辺に着いた。

○オーイ。ツイタ　ゾー。<他の人と一緒の時。話者は山登りに慣れているので、自分 1 人の時は「よいこらしょ」に相当する言葉は特別何も言わない。>

(4)しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○ア　シモター。アー　ヨカッター。あ、しまった！ああ、よかった。<はじめ驚き、続いて安堵するという言い方の順になる。>／○モーチョットデ　オチルトコヤッタ。もうちょっとで落ちるところだった。<普通、ここまで言うことはなく、上の言い方

で終わる。>

(5)くわばらくわばら。恐ろしかった!

○アー　ヒデーメニ　オータ。アー　ヨカッタ。ああ、ひどい目にあった。ああ、無事でよかった。<「クワバラクワバラ」は当地では言わない。>

(6)しめた! 今度の魚は大きいぞ。

○オ、カカッタ　カー。おっ、かかったかな。<このような緊迫した状況の時、自分の場合、魚が大きいとか小さいとかは言わない。>

(7)ままよ。飛び越えるしかない。

○ヨシ。よし。<自分だけしかいない時は、心身に気合を込めてこの一語だけ発する。>／○イッチョー　トブ　カ。一気に飛ぶか。<他人と一緒の時>

(8)なにくそ!　負けてなるものか。

○クソッ。<気持ちが切羽づまっているので、これだけしか言わない。「負けてなるものか」という説明的な表現はしない。>

(9)しめしめ!　誰も気がついていない。

○ヨーシ。シメタ。ンマイコトヤッタ。ようし。うまくいったぞ。

(10)ちぇっ。つまらないなあ。

○ヘッ。へっ。<吐き捨てるように言う>／○ヘン。へん。<同じく吐き捨てるように言う。／○ハイ　ワカリマシタ　ヨ。はい、わかりましたよ。<故意にきわめて丁寧に言うことによって不満の意を示す。>

(11)ちくしょう!　仕返しをしてやる。

○クソッ。くそっ。<分析的に「仕返しをしてやる」と言うことはしない。>

(12)くそっ!　覚えていろ!

○チッ。ちぇっ。／○クッ。くそっ。<腹に力を入れて、喉の奥で破裂させるように短い音を発する。怒りが強い時は、「覚えていろ」と説明的に言うことはしない。>

(13)おやおや、いったいどうしたの。

○ドーシタン。どうしたの?<自分の子供の場合、心配のあまり「おやおや」と言っているゆとりが無い。>／○アリャ。ドーシタン。あれ、どうしたの?<他人の子供が相手の場合。>／○アララ。ドーシタン。あれあれ。どうしたの?<他人の子供が相手の場合。>

(14)えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○アハン。ウラワ　ナンタッテ　ココデ　イチバンチカラ　アルンニャ　ザ。あはん。俺はなんと言ってもここで一番力があるんだぜ。<「アハン」の部分は空咳(からせき)をする。>

(15)はてな、ここはどこだろう?

○アレー。ココワドコヤロ。ワカランヨーナッテモタ。あれ。ここはどこだろう。分か

らないようになってしまった。／○アレー。ドコヤロ　ナ。ヨワッタ　ナー。あれえ。どこだろうなあ。困ったなあ。

2．他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16)はい、承知いたしました。

○ハイ。ワカリマシタ。はい。わかりました。／○ハイ。ショーチイタシマシタ。はい。承知いたしました。<より改まった言い方>

(17)はい。宜しゅうございます。

○ハイ。マチガイゴザイマセン。はい。まちがいございません。

(18)ええ、ここに居ます。

○オー。イル　ゾ。おお、いるぞ。<自分が居ることを示す場合。ぞんざいな言い方>

○アー。イナハル　ザ。ああ、おいでですよ。<他人が居ることを示す場合>

(19)んだ。私の傘です。

○ホヤ。ウラノヤ。そうだ。俺のだ。／○アー。ワタシノヤ。ああ。私のだ。

(20)さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ホヤホヤ。オイジュノユートーリ　エレ。そうだ、そうだ。お前さんのの言うとおりだよ。<「オイジュ」は中年以降の親しい男性間で使われる対称。>

(21)ほいきた。おやすいご用です。

○オーオー。ワカッタワカッタ。おうおう。分かった、分かった。<「おやすいご用です」に相当する言葉は言わない。>

(22)よっしゃ。やりましょう。

○ヨッシャ。ワカレンシタ。ヤレンショ。よっしゃ。分かりました。やりましょう。

(23)よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ヨッシャヨッシャ。ンナラ　サシテモラエンショ。よっしゃ、よっしゃ。それではさせていただきましょう。

(24)がってんだ。一緒に行きましょう。

○オー。ワカッタ。イッショニ　イケンショ。おお。分かった。一緒に行きましょう。

(25)かっぱのへだ。簡単だ。

○ホンナモン　カンタン　エレ。そんなこと、簡単だよ。<「かっぱのへ」という言い方は知っているが、当地では言わない。>

(26)いえいえ、とんでもございません。

○イヤイヤ。ソンナコト　ユーテモラウホドノコトワ　ナインニャ。いえいえ。そんなこと、言ってもらうほどのことはないんですよ。

(27)なんの、たいしたことではございません。

○ナーモ。タイシタコトナインニャ。別に。たいしたことではないんですよ。

(28)なあに、擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。
○イヤ。タイシタコト　ナインニャ。チョットシタキズダケノコトヤ。いや。たいしたことは無いんです。ちょっとした傷程度のことですよ。
(29)なにさ、いつも調子の良いことばかり言って!
○ナンヤ。イツモ　チョーシノエーコトバッカ　ユーテイサライテ。なんだい。いつも調子の良いことばかり言っていやがって。
(30)いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。
○ヤー。ヒッデメーニ　オーテモタ　ワ。いやはや。ひどい目に遇ってしまったよ。<当地では「いやはや」とは言わない。>
(31)へん、勝手にしやがれ。
○アー。ホンナモン　カッテニシヤガレ。何を。そんなこと、勝手にしやがれ。<「アー」の部分を強く言う。>
(32)なめるんじゃねぇよ。こいつ!
○テヤンデェ。キサマ　ナメクサラカイテ。何を言っていやがる。きさま、なめやがって。
(33)冗談じゃない。口から出任せを言って!
○テヤンデェ。カッテナコト　イークサラカイテ。なんだと。勝手なことを言いやがって。／○ホンナ　バカナ。そんな馬鹿な。
(34)だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ)ばかり言って!
○ダマレ。ウダウダユー　ナ。黙れ！ぶつぶつ言うな！
(35)そうは問屋がおろさねえ。黙っていられねえ。
○ナニ　ユーテンニャ。バカナコト　ユー　ナ。エーカゲンニ　シェン　カイ。何を言っているんだい。ばかなことを言うな。いい加減にしないか。
(36)うそもへチマもありゃしねえ。我慢(がまん)できねえ。
○ウラ　モー　ガマンデキン　ザ。俺はもう我慢できないぞ。<「うそもへチマも…」の部分に相当する言い方はしない。>
(37)寝言は寝ていえ。このやろう。
○タワケタコト　ユー　ナ。ばかげたことを言うな。
(38)あたりきしゃりきのけつのあな。当たり前だ!
○アタリキシャリキ　ンマノケツ。あたりきしゃりき。馬の尻。
(39)きみょうきてれつだ。それは変だ。
○ホンナモン　オエ　アッ　ケヤ。ホンナモシェコト。そんなこと、お前、あるかい。そんなおかしなこと。
(40)ほほう、それは親孝行なお子さんですね。
○ホー。ホリャ　タイシタモンヤ　ノー。ナンタ　オヤコーコーナンヤ。ほう。そりゃ

たいしたものだねえ。なんて親孝行なのだ。
(41)まいったまいった。しかたがない。
○コーリャ　マイッタ。ドーモナラン　ナー。これは参った。どうにもならないなあ。

3．他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」
(42)もしもし、すみません。役場はどこにありますか。
○スイマセン。チョット　オシエテイタダキタインデス　ガ。ココノヤクバワ　ドコイッタラヨロシーンデショー　カ。<役場を聞くのはよそへ行った場合なので、丁寧な言い方になる。「もしもし」は目の前の相手には言わない。>／○モシモーシ。もしもし。<遠方の人に呼びかける場合。>
(43)のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。
○ドッカラ　キナハッタンニャ　ノ。ホーリャ　ヨーコソ。どこからおいでになったのですか。そりゃようこそ。
(44)ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。
○ミナサン　アチラオ　ゴランクダサイ。皆さん、あちらをご覧ください。<「ホラ」は会話の最初には言わない。会話の進展している中で注意を向ける時に言う。>
(45)やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？
○アラー　ドーシタ　ン。コンナ　アサハヨーカラ　ドコイク　ン。あら。どうしたの。こんなに朝早くからどこへ行くの？
(46)よう、兄弟。これから何をするつもりだい?
○オーイ。オイジュラ　イマカラ　ナニ　シンニェ　ノ。おおい、あんた方、今から何をするんだい。<相手が複数の場合。「オイジュラ」は中年以降の親しい男性間で用いられる対称「オイジュ」の複数形。>
(47)いざ、さらば。
○ホンナラ　サヨナラー。それじゃ、さようなら。
(48)ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。
○サー。エンリョシェント　アガットクンネンシェ　ノ。さあ。遠慮しないで召し上がってくださいよ。
(49)さて、そろそろ一服しませんか。
○ドー　エノ。ホンナラ　ココラデ　イップクシェンショ。どうですか。それじゃこの辺で一服しましょう。
(50)これこれ、ちょっと静かにしなさい。
○コラッ。チョットシズカニ　シェン　カイ。こらっ。ちょっと静かにしないか。
(51)おい、こら。万引きをしてはいけない。
○コラッ。ダマッテモッテクモン　アル　カイ。こらっ！黙って持っていく奴があるか。

(52)おどりゃあ。いい加減にしないか!

○ボラッ。エーカゲンニ　シェン　カイ。こら、坊主め。いい加減にしないか。<相手が言うことを聞かない男児の場合。>

○ドスベサガ。ホントニ　ドムナラン。この困った娘めが。本当にどうにもならない。「ドスベサ」は女児を卑罵した言い方。>

(53)おのれ、裏切りやがったな。

○ワラァ　ヒト　アヤニシヤガッテ。おのれ。人を馬鹿にしやがって。<「ワラァ」は「われは」の変化したもの。>

(54)どっこい。その手には乗らない。

○ソレワ　ドッコイ。ソーワ　イカン　ザ。それはどっこい。そうはいかないぜ。

(55)どうだ、参ったか?

○ドヤ。マイッタ　カ。どうだ。参ったか。／○ドヤ。コーサンヤロ。どうだ。降参だろう。

(56)せいの、よいしょ!

○セーノ。セーノ。せいの。せいの。<「よいしょ」とは言わない。誰かが「セーノ」と言い出すと、皆でそれを一緒に繰り返す。「セー」のところで皆心積もりして「ノ」のところで一斉に力を入れる。

(57)よういい、どん!

○ヨーイ、ドン。よういい、どん!

(58)いっせいの、で!

○セーノ。セーノ。

(59)よいしょ、よいしょ、もう一息だ!

○セーノ。セーノ。ホリャ　モーチョコットヤ　ゾ。セーノ。セーノ。

(60)うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

上記(59)に同じ。

(61)わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッショイ。ワッショイ。わっしょい。わっしょい。<」わっしょい」を繰り返すのみ。「ショイ」のところで一斉に力を入れる>

(62)はじめはぐう、じゃんけん、ぽん! あいこでしょ。

○ジャンケンモッテ　ホイ。アイコデ　ホイ。じゃんけんもって　ほい。あいこで　ほい。<「ホイ」と言った時に一斉に自分の選択したものを出す。>

(63)きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

○キオツケー、マエエー　ナラエー、ナオレー。気を付け。前へ習え。直れ。<学校の体育の時間に体操の先生しか言わない。>

(64)きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツー。レー。チャクセキー。起立。礼。着席。<大声で言う。>

(65)ばんざい、ばんざい。やった、やった!

○バンザーイ。バンザーイ。ばんざい。ばんざい。<大声で言う。>

(66)えいえいおう。頑張るぞ。

<日常生活では言わない。>

(67)中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

○ナカムラサンノタンジョーオ　シュクシテ　カンパーイ。中村さんの誕生を祝して乾杯!<誕生祝で乾杯をすることは地域での日常生活では普通行わない。>

(68)やっほう、やっほう。

○ヤッホー。ヤッホー。やっほう。やっほう。

(69)ふれえ、ふれえ、白組。

○フレッ、フレッ、シーローグーミー。

(70)おにはそと、ふくはうち。

○フクワー　ウチ。オニワー　ソト。福は内。鬼は外。<節分の豆まきの慣わしは当地ではかつてはしなかった。最近の子供がするようになった。「福は内」の部分を「鬼は外」の部分よりも先に言う。>

(71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。

○ドモナランボーヤ　ナ。○ドモナランベサヤ　ナ。<「ドモ」の部分を特に強く言う。「ベサ」は女児を罵った言い方。>

(72)それみたことか、わんぱく坊主。

○ホラミタコト　カ。コノヤンチャモンガ。バチアタッタヤロ　ガ。そら見たことか。このやんちゃ者が。罰が当たっただろうが。

(73)ざまあ、みろ。いい気味だ。

○ヤーイ、ヤーイ。やあい、やあい。/○サッキユータヤロガ。ホントニ。さっき言っただろうが。ほんとうに。

(74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

○ンー。テナワンコト　ユー。ううむ。ひどいことを言う。/○ンー。ヒデーコト　ユー。ううむ。ひどいことを言う。

(75)このやろう。どうしてくれようか。

○クッソ。カラスメ　ガ。くそっ。烏めが。<「どうしてくれようか」の部分は言わない。>

(76)たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○クソッ。タワケタコト　イーヤガッテ。くそっ。たわけたことを言いやがって。

(77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○ンナ　バカナ。ホンナイーコロカゲンナ。そんなばかな。そんないい加減な。

(78)あなかま、静かにしなさい。

○アー　ヤカマシ。オイ　シズカニシェー　エレ。ああ、やかましい。おい、静かにしようよ。

(79)しいいっ、静かにして!

<唇に手を当てるしぐさだけを行い、何も言葉を発しない。>／○スイマセーン。シズカニシテクダサーイ。<やかましくてこれ以上我慢ができない場合に言う。>

(80)ちちんぷぷい、蛙、蛙、生き返れ。

<そのようなことをしたり言ったりした記憶が無い。>

(81)あっかんべい、鬼さん、こちら。

<かくれんぼうはして遊んだがそのようなことをしたり言ったりした記憶が無い。>

○アッカンベー。あっかんべい。<右人差し指を右目の下まぶた辺りに当てて言う。>

(82)あっぱれ、お見事。立派です。

○アララァ。アンタ、アリガト　ノー。あららあ。あなた、ありがとうねえ。<質問に対応する答え方は得られなかった。この例文は、頼んだことをうまく仕上げてくれた相手にお礼を言う場合の言い方である。>

(83)でかした、でかした。日本一。

○コーリャ　タイシタモンヤ　ノー。コーリャ　ニッポンイチヤ　ノー。これはたいしたものだねえ。これは日本一だねえ。

(84)しっけい!　すみません。

○アラーッ。ゴメンナサイ。あらあ。ごめんなさい。

(85)あばよ、達者でな。

○アーバー。さようなら。<「アーバー」は方言形と意識されている。この言い方は昭和30年代まではよく言ったが現在では廃れている。>／ホンナラ　ゴメンネンシェー。それではごめんなさい。<「タッシャデナ」に当たる言葉は、近所の人たちには言わない。>／○ホレジャ　オゲンキデ　ネー。<まれにしか会わない人に対して言う。>

III　総括(まとめ)

以下、調査結果から知られた「立ち上げ詞」使用に関する傾向をまとめることとする。なお、調査者と被調査者は共に福井県勝山市に在住し、2人の自宅間の距離が約2kmと接近しているため、方言差はほとんど無いと判断される。そのため、以下の考察には調査者の内省も取り入れた。

1　自分1人だけがその場に居る場合には、「立ち上げ詞」に続いて状況を説明する表現は普通付けない。その主な理由として次の点が考えられる。

①　自分が状況を理解しているのでわざわざ言う必要が無い。

②「立ち上げ詞」を発する場合は切迫した事態であるので、未分化なままの感動表現

となるため。

2　自分以外の人がその場に居る場合には、次のような傾向が認められる。

(1)事態が切迫していて、相手に訴える必然性が高い場合は、「立ち上げ詞」に続いて状況を説明する表現を付けることが多い。その主な理由として次の点が考えられる。

相手に訴える場合、まず自分の返答、勧誘、禁止、喜び、怒りなどの訴えの内容を未分化のまま、「立ち上げ詞」で表現するが、それだけでは相手に理解させるのは情報不足であるので、その訴えを分析的に表現して伝える必要があるため。

(2)事態がそれほど切迫していず、相手に訴える必然性が低い場合は、「立ち上げ詞」を用いず、分析的、客観的な表現を用いることが多い。

(3)相手が自分よりも目上の場合やフォーマルな場面の場合は、応答詞は別として、「立ち上げ詞」が使われることは少ない。この理由として次の点が考えられる。

立ち上げ詞は話者の心的内容を全一的に、未分化なままで表出するものであるため、相手への待遇価値が低いため。

3　「立ち上げ詞」が用いられる場合は、話者の感情や相手への訴え意識の強さに応じて、発声の際の声の強さ、短かさが、他の表現部分よりも目立つ。

（あまのよしひろ　仁愛大学）